

スーパー従業員殺人事件から1週間

物証乏しくなぞ多い

捜査本部 計画的な犯行か

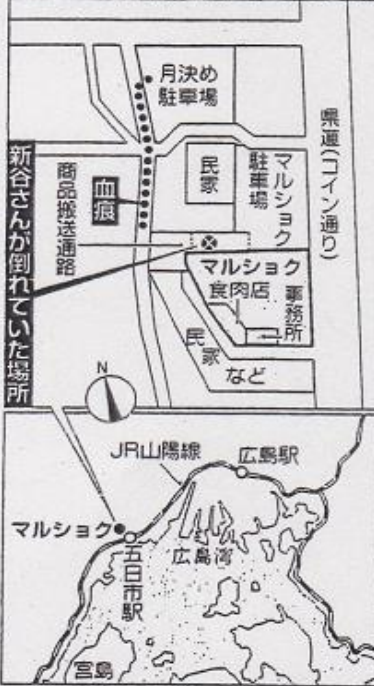
広島市佐伯区五日市中央四丁目のスーパー「マルシヨク」で深夜、同店主の新谷進さん(当時三六)が刺殺された事件は九日で発生から一週間を迎えた。県警捜査本部は延べ六百六十人の捜査員を投入し、懸命な捜査を続けている。しかし、物証に乏しく、多々のなぞを残したままで、犯人像や動機、逃走経路などを絞りきれないところ。

目的は

事件発生は三日午後九時ごろとみられる。そのころ、付近の住民が男性の大きな声を聞いたことがわかっている。新谷さんには、致命傷となった首のほか、顔や胸、手の甲などに鋭い刃物による傷があり、犯人ともみ合いになったらしい。

店内からは血痕が見つかり、犯人は新谷さんを殺害したあと店内を物色し、食

スーパー従業員殺人事件の現場



肉店のブースから現金数千円を盗ったとみられている。いたとみられる店舗と店内の入り口を手提げ金庫を持。また、新谷さんが所持していたとみられる店舗と店内

ていた。

しかし、食肉店に隣接する事務所に着かれた、運来の売り上げ約三百万円が入った金庫は荒らされていなかった。新谷さんが身につけていた数万円の入った財布もそのまま残されていたという。

捜査本部は金品目的の犯行の可能性が高いとみてい

るようだが、ある捜査幹部は「物取りとしては中途半端だ」と漏らし、犯行目的も測りかねている。

計画的性

店内からは手袋の跡が見つかり、捜査本部は犯人が手袋を使用していた可能性が高いとみている。刃物を用意していたとみられ、計

画的な犯行との見方を強めている。

物証は

現場には、商品搬送通路から北に約五十メートル離れた月決め駐車場にかけて、血痕が点々と残っていた。犯人は店外に出たあと、隣家の塀を乗り越えて逃げたとみられている。捜査幹部の一人は「血は靴底に付着したもので、血痕自体は駐車場まで消えているものの、そこから車で逃走したとは断定できない」と話す。

血痕の途絶えた駐車場からは、いつもより多いというたばこの吸い殻なども押収された。しかし、凶器の刃物は発見されておらず、これまで犯人逮捕に直接結びつくような物証は得られていない。捜査本部は付近の聞き込みなど地道な捜査を続けることになった。

新谷さんが倒れていた現場には、花や練香、お菓子などが供えられている。広島市佐伯区のマルシヨクで

